

「咄の会」活動記録

第二期

文責：世話人代表 山田敏之

番外編（7） 寄席巡り—その3

日 時：2014年3月4日（木）12:45～16:15

場 所：国立演芸場

出演者・演目：小里ん『木乃伊取り』、歌る多『金明竹』、
藤兵衛『小言幸兵衛』、燕路『締め込み』、
柳朝『持参金』、遊一『元犬』、その他

参加者：13名（懇談会は9名）

懇談会：グランドアーク半蔵門「ラメール」



久しぶりの「寄席巡り」ですが、今回はちょっと趣向を変えて、国立演芸場にしました。他の4軒の寄席に比べて、いささか格調が高く、そのくせ入場料は低いという、国立ならではの有難い存在です。

トリは柳家小里んです。同門でほぼ同世代のさん喬や権太郎に比べてやや地味な存在ですが、80年代には落語会のいろんな賞を攫った実力の持ち主で、この日も『木乃伊取り』をじっくり聴かせてくれました。堅物の清蔵が酔うほどに変貌していくきめ細かい描写には、参加者からも讃嘆の声が聞かれました。その他、藤兵衛、燕路などの達者な芸が楽しめましたし、柳朝の『持参金』は上方種で、東京では珍しい部類に属し、参加者全員が初めて聴く貴重な噺でした。

終演後は近くのホテル4階のラウンジで、皇居のお濠を眼下に眺めながら、芸の余韻を肴に生ビールで喉をうるおしました。

第12回「咄の会」（講演）

日 時：2014年2月7日（金）14:30～16:30

場 所：山ノ内公会堂

講演者：山本 進

題 名：「三遊亭圓朝と三題噺」

参加者：23名

懇談会：「鈴や」（参加者：10名）



山本さんの「落語の歴史シリーズ」は、第2回に1600年頃の「落語のはじまり」、第4回に1700年頃の「落語家のはじまり」を聴きました。次は1800年頃の「寄席のはじまり」、1900年頃の「古典化のはじまり」と続くのですが、今回は特別に近代落語の祖、三遊亭圓朝について伺いました。また圓朝の三題噺の名作の中から、『大仏餅』を桂文楽、『鰻沢』を三遊亭圓生のビデオで、それぞれの見どころの解説を聴きながら鑑賞し、参加者一同昭和の名人たちの至芸を心ゆくまで楽しみました。

第 11 回「咄の会」(落語実演)

日 時：2013 年 12 月 13 日 (金) 14:30～16:30

場 所：山ノ内公会堂

出演者：正 國彦氏 (高座名＝宮亭大奥、東大落語会)

演 目：『宿屋の富』 及び富籤や賭博についてのお話

参加者：27 名

懇談会：「鈴や」(参加者：正さんを含めて 11 名)



久しぶりに東大落研 OB 武闘派の方をお招きしました。

HCD の東大落語会寄席でも毎年熱演されている正 國彦さん、高座名は学生時代からずっと宮亭大奥とのことです。まずは古典落語の名作『宿屋の富』。志ん朝を手本にしたとのことですが、たっぷり 40 分以上かけてこの大ネタに取り組み、千両富に当たった一文無し男の驚喜からサゲに至るクライマックスを一気呵成に演じきった勢いは見事というしかありません。

中入り後は、本職である弁護士の観点から富籤や賭博についてのお話。刑法には「偶然の輸贏*」という言葉があるというところから始まり、さらには何故詐欺や賭博が刑法の対象になるのかという概念に及び、参加者一同久しぶりに法学の授業を聴く気分になりました。ついで頼母子講や無尽講の話、この日の眼目である富興行の生い立ちからその実態までの詳しい解説を経て、賽子を使った賭博のさまざまに至るまで、江戸時代の生活の一端を知る貴重な機会となりました。

*「輸贏」は本来はしゅえい、慣用的にゆえいとも読む。「輸」は負け、「贏」は勝ちの意。

番外編 (6) 東大HCD 東大落語会寄席

日 時：2013 年 10 月 19 日 (土) 12:00～17:30 の間随時

場 所：東大本郷キャンパス・法文一号館 21 番教室

出演者：トリの風呂家さん助 (藤井隆) さんほか 12 名

参加者：5 名 (全く自由参加のため正確には未詳)

懇談会：なし



今年は合計 13 名の出演者があり、法文系で一番大きいという 21 番教室が、一時は本当に満員になるという大盛況でした。トリを取った藤井さん (淀五郎一上の写真) はじめ、十時さん (雁風呂)、長束さん (だくだく)、田頭さん (道具屋) などすでに「咄の会」でお馴染みの方や、次回にお願いしている正さん (紙入れ) など、落研 OB 武闘派の面々の素人離れた達人な芸をたっぷり堪能しました。

この日のために何回も合同稽古を重ねて来たとのこと、その成果が遺憾なく発揮されたといえるでしょう。来年も開催されるでしょうから、ぜひ大勢の方に聴いていただきたいものです。

第10回「咄の会」(落語実演)

日時：2013年10月3日(木) 14:30~16:30

場所：山ノ内公会堂

出演者：三遊亭吉窓(落語協会真打・常任理事)

演目：『菟藟問答』『一文笛』 踊り「なすかぼ」

参加者：29名

懇談会：「鈴や」(参加者：吉窓師匠を含めて11名)

第10回達成記念に、初めて真打の噺家さん登場です。「咄の会」の熱心な常連でもある吉崎蓮一会員のご尽力で、落語協会常任理事の三遊亭吉窓師匠をお迎えすることができました。

軽いくすぐりをちりばめた楽しい「まくら」とともに、仕草オチが絶妙な『菟藟問答』と、人間国宝桂米朝師匠作の『一文笛』の二席を演じていただき、見事な話芸に酔い痴れました。さらにおまけとして、コミカルな文句に相応しい軽い身振りで「なすかぼ」を踊っていただきました。天井が低くてさぞ踊り難かったことと思われます。

最後の質問コーナーでも、会場からの質問に丁寧に答えていただき、充実した2時間を過ごしました。



第9回「咄の会」(講演)

日時：2013年8月1日(木) 14:30~16:30

場所：山ノ内公会堂

講演者：山本 進

題名：「名作聴きくらべ」

参加者：32名

懇談会：「笹の葉」(参加者：山本さんを含めて12名)



第2回、第4回と続けて落語の歴史について講演していただいた山本進さんに、久しぶりにご登場願いました。今回は少し趣向を変えて、関東の『時そば』、関西でいう『時うどん』を、前者は先代柳家小さんと滝川鯉昇、後者は先代桂文枝と桂枝雀のビデオで聴き比べ、同じ噺でも東西の別や演者によっていかに違ったものになるか、またそれぞれの味わいどころはどこかなどについて、詳しく解説していただきました。また、そのほかにも、何故「二八そば」と呼ばれるのかとか、この噺を理解するには必須の知識である江戸時代の時刻の数え方や貨幣制度についてとか、いろいろ「学校では教えないような」ことをいっぱい勉強できました。

番外編（５） 寄席巡り—その２

日 時：2013年7月4日（木）11:40～16:30

場 所：浅草演芸ホール

出演者・演目：一之輔『味噌豆』、三三『やかん』、
白酒『ざる屋』、圓歌 随談、
正雀『豊竹屋』、馬生『干物箱』、その他

参加者：6名

懇談会：「レストランカミヤ」（参加者6名）



前は昨年9月に上野の鈴本演芸場を訪れました。その後今年3月に企画したのですが、事情があつて中止となり、今回やっと実現したものです。新進気鋭の一之輔から大御所圓歌まで含む充実した番付に惹かれて浅草演芸ホールを選びました。トリは十一代目馬生で、古今亭系の『干物箱』を聴かせてくれました。大喜利の『塩原多助 青の別れ』では、馬生が多助に、和楽社中の和助が青に扮し、正雀が太夫を務めるという趣向で、下がかった仕草も笑いを呼び、たっぷり楽しむことができました。

昼の部終演後は日本で最初のバーという「神谷バー」の2階にある「レストランカミヤ」で、明治15年に生まれたという名物デンキブランを嗜みながら暫しの間歓談しました。

第8回「咄の会」（落語実演）

日 時：2013年6月13日（木）14:30～16:30

場 所：山ノ内公会堂

出演者：立川志の春（落語立川流二つ目）

演 目：『夏どろ』『厩火事』

参加者：38名

懇談会：「鈴や」（参加者：志の春さんを含めて14名）



前回に続き再びプロの登場です。落語立川流二つ目の立川志の春さんに、古典落語二席を演じていただきました。どちらも好演で参加者も大満足でした。終了後参加者から志の春さんにたくさんの質問や意見が出て、一つひとつ丁寧に答えていただきました。

志の春さんは Yale 大学卒業後、三井物産で活躍されていたのですが、ある日ふと立川志の輔師匠の落語を聴いて一念発起し、その弟子となったという変わり種です。淡青会書道教室とご縁があり、最近雪堂美術館で2回、東慶寺で1回落語会を行っています。雪堂美術館での独演会は今後も継続されるということです。ぜひご声援ください。

なお、Yale 大学と東大の間、およびそれぞれの同窓会組織の間で、親密な交流関係があります。その関係で2009年に同大学卒業生一行が鎌倉を訪れた際には、鎌倉淡青会メンバーが案内しました。

第7回「咄の会」(落語実演)

日時：2013年4月11日(木) 18:00~19:30

場所：山ノ内公会堂

出演者：春風亭昇吉(落語芸術協会二つ目)

演目：『稲川』『やかん』『かわいや』『桃太郎』

参加者：34名

懇談会：「タケル クインディチ」(参加者：11名)



「咄の会」開設1周年記念として、初めてプロの噺家さん、しかも史上初の東大卒噺家である春風亭昇吉さんをお招きしました。中入りを挟んで前後二席ずつ、比較的珍しい噺とポピュラーな噺を組み合わせさせてたっぷり楽しませてもらいました。また噺の終わったあと、噺家になった動機とか、噺家生活の裏話など、あれこれ織り交ぜて聴くことができました。

昇吉さんは岡山大学を経て、改めて東大に入り直したという変わり種ですが、在学中に全日本学生落語選手権・策伝大賞に見事優勝し、落語によるボランティア活動などで東大総長大賞も受賞したという背景のもとに、卒業後すぐ春風亭昇太に入門し、平成23年に二つ目に昇進しました。最近ではテレビ番組にも多く出演しています。この日もレギュラー出演中のフジテレビ「アゲるテレビ」の打合せのため、18:00開演となり、終わったあともまた打合せのため都内にトンボ返りという多忙さでした。

昇吉さんにはこの会に先立って、鎌倉淡青会平成25年新年会にも特別出演し、『甲府い』『明烏』の二席を演じていただきました。皆さんもぜひ同窓の噺家さんに声援を送ってください。

・・・<以下 WIKIPEDIA より抜粋>・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

春風亭 昇吉(しゅんぷうてい しょうきち、1979年10月29日 -)は、岡山県出身の落語家。落語芸術協会会員。二つ目。本名は國枝明弘。岡山大学経済学部、東京大学経済学部卒業。東大出身初の落語家。ワタナベエンターテインメント所属。

地元の岡山大学卒業後に、23歳で東京大学経済学部で学士入学^[2]。落語研究会に入党し「井の線亭ビリ馬(いのせんてい びりば)」を名乗り、2006年に第3回全日本学生落語選手権・策伝大賞で優勝(演目は「まんじゅうこわい」)。

2007年、東京大学経済学部経営学科を首席卒業。落語選手権優勝や落語ボランティア活動などが評価され東京大学総長賞受賞(年間の総長賞受賞者のうち特に優れた業績を挙げた者に贈られる「東京大学総長大賞」も受賞)。卒業直後に春風亭昇太に入門。

2011年、気象予報士の資格を取得。

TV出演： 「サキどり↑」(NHK)、「ソモサン・セツパ!」(フジテレビ)、「超タイムショック」(テレビ朝日)、「クイズプレゼンバラエティー Qさま!!」(テレビ朝日)、など。